東葛しぜん研修観察会

小室で春を見つけよう

梁川まさよ（船橋市）

日　時：2021 年 2 月 6 日（土）9：30～12：00
場　所：小室駅～八幡神社～小室集落～神崎川～小室公園～運動広場
参加者：20 名　担当指導員：田島・林・梁川・（勝股）

下見会の時は 冷たい風が吹いて本当に寒くて 鳥を見つけるどころではない日がありましたので、観察会の当日は 好天に恵まれて幸いでした。始めに小室の土地の様子・地形・遺跡等の説明の後、3 班に分かれてスタート。現在の霊園近くにあって 昭和 50 年代に移転した本覚寺・八幡神社、昔からの祈りの場を経て、室町時代から続く小室集落へと歩きました。旧家の門や蔵？ 倉？はとても立派です。神崎川の土手には次々とモグラ塚、地下 25 ㎝～60 ㎝の所にはバスケットボール位の大きさに落ち葉をふんわりと丸め固めたモグラの巣がある事、トンネルの中にはトイレがあり、使われていない古いトイレ跡からは菌根菌のナガエノスギタケ（別名モグラノセッチンタケ）が生えて 地下の有機物等を地上に出す。捕まえた余分のエサは仮死状態にして貯蔵するモグラの地中の生活を想像しました。

空を見上げるとノスリがカラスに追われて逃げています。先程お出掛けしたダイサギが戻って来たりして、近くで見る大きな鳥は迫力がありました。「ベニマシコ」の声が聞こえました。いました。初めて見るベニマシコでした。川の流れの近くには、ハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイが、木々の間ではツグミ・カワラヒワがみられました。人が多いせいか 鳥の数は多くなかったのですが、向こう岸からもみられる野鳥観察にはとても良い場所です。

小室公園では、モズのはやにえのカエル、1 月は緑色でもっとふっくらしていましたが随分干からびているのにビックリ。こんなに干からびてもモズは食べるのだろうか？ モズは動くものを見つけると食べなくてもはやにえにする、バッタ類が多いようです。
ハリエンジュの切り株からの萌芽をみると鋭いトゲが沢山あり、鋭いトゲとトゲの間には冬芽（陰芽）があり レッサーパンダに見える。1 月雨が降る前の調整池は水がほとんどなくなり、大きなコイやフナ等があちこちで死んでいました。雨が降って水の増えた池には死んだ魚たちが浮いています。自然はきびしい。椿の真っ赤な花弁にはメジロがミツを吸った時にとまった跡がくっきりとついていました。

立ち枯れのコナラは伐採する予定なのか ヒモを巻かれていました。12 月にはその木の下にフラス（木くずや糞）の堆積がみられましたが 余り残っていませんでした。カシノナガキクイムシが開けた穿入孔はわかりました。6 月頃、枯死したコナラから新成虫がとびだして、新たな生木に穿入孔を空け、集合フェロモンを出して仲間（オス・メス）を呼び寄せるまでにこの枯れた木を処分出来るのだろうか？ との心配の声もありました。穿入孔やフラスの堆積を確認したら、県・市の担当部局か森林組合に連絡して、ナラ枯れを少しでもストップさせたいと思いました。

神崎川の野鳥をみる

ハリエンジュの鋭いトゲと葉痕

コナラのカシナガ穿入孔を観察